

長崎県富江病院
公的医療機関等2025プラン

平成29年11月策定

【長崎県富江病院の基本情報】

医療機関名：長崎県富江病院

開設主体：長崎県病院企業団

所在地：五島市富江町狩立499番地

許可病床数：55床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期

稼働病床数：55床

（病床の種別）一般病床

（病床機能別）急性期

診療科目：内科、外科、整形外科、眼科、小児科、リハビリテーション科

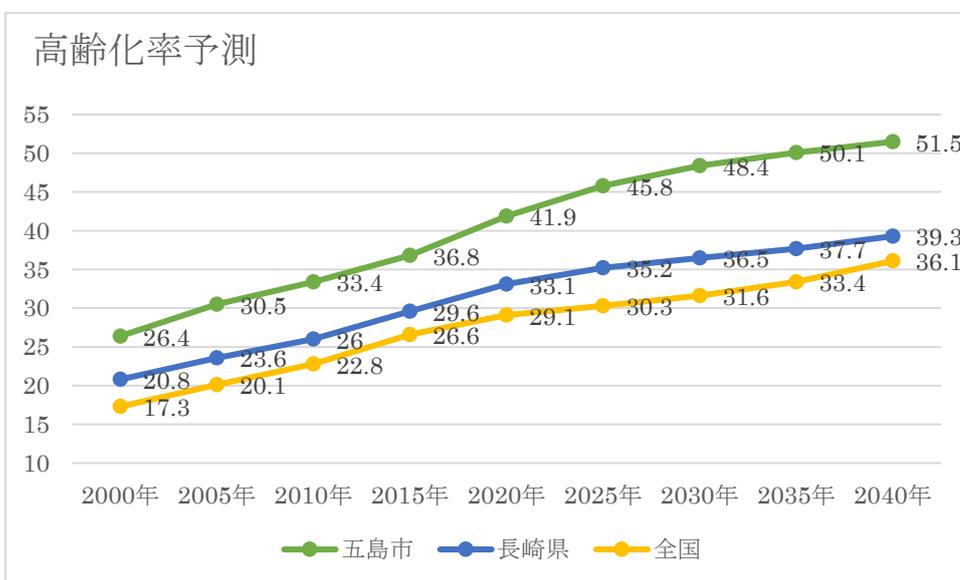
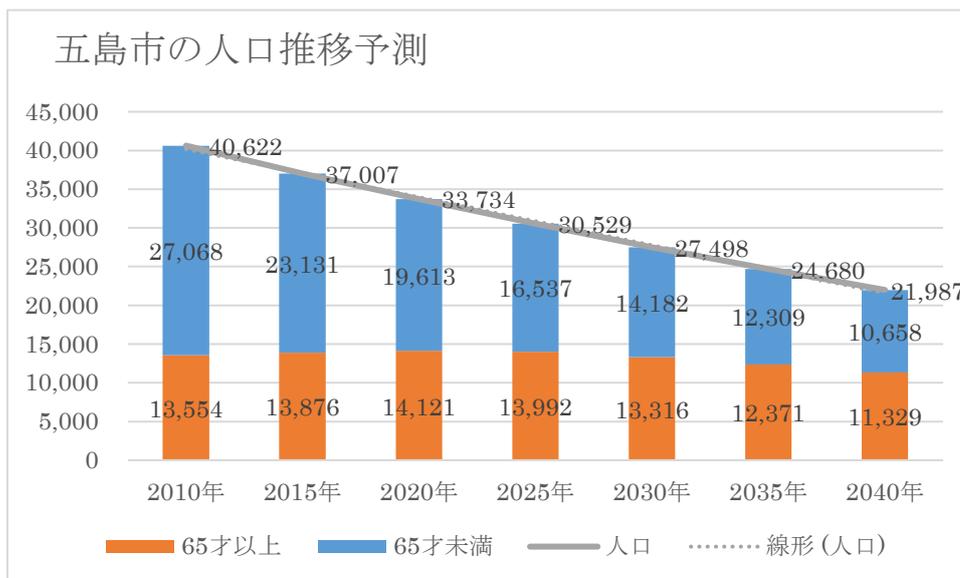
職員数：63名（非常勤職員含む）

- ・ 医師 4名
- ・ 看護職員 34名
- ・ 専門職 7名
- ・ 事務職員 8名
- ・ その他 10名

【1. 現状と課題】

① 構想区域の現状及び課題

○人口減少、少子・高齢化等も急速に進行しており、患者の医療ニーズも変化してきていることから、地域の医療における自院の役割を明確にし、地域の医療機関、介護施設や行政との一層の連携強化を図り、将来を見据えた医療提供体制を構築することが必要である。



五島市の人口は減少傾向にあるが、65歳以上人口についてはほとんど変化なく、若年者人口が徐々に減少していくと推測される。

○医療従事者の確保は引き続き厳しい状況が続いており、今後の退職予定者数の、見込みを踏まえ、計画的な確保を務める必要がある。

五 島 市 企 業 団 病 院 職 員 数	定数	平 成 2 6 年		平 成 2 7 年		平 成 2 8 年		平 成 2 9 年	
		正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規
医師	40	29	5	32	4	31	8	34	2
看護師	202	168	58	169	57	181	43	177	41
薬剤師	11	6	0	7	0	6	1	6	1
検査技師	14	12	2	11	3	11	3	11	3
放射線技師	12	11	0	11	1	11	1	11	1
OT・PT	12	10	1	10	1	10	1	12	1
栄養士	3	3	1	3	2	2	3	2	3
工学技士	2	1	0	1	0	2	0	2	0
視能訓練士	0	0	1	0	1	0	1	0	1
事務	26	23	9	24	11	23	11	22	11
助手・クレーク	1	0	69	1	68	1	61	1	59
その他	9	7	9	7	13	7	19	7	20
合計	332	270	155	276	161	285	152	285	143

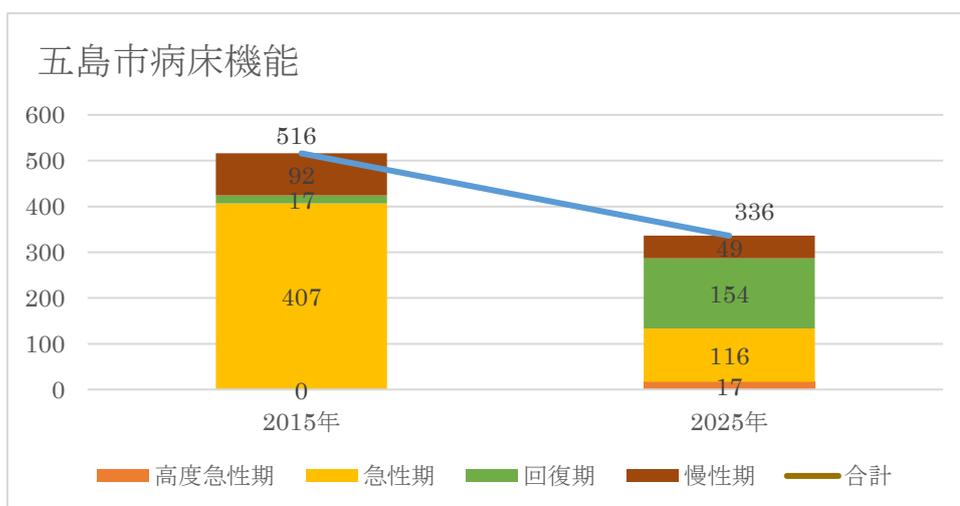
○経営の健全化

今後、施設改修、医療機器更新が集中し、資金収支の悪化が見込まれており、資金的支出の増加は減価償却費を増加させ、経常収支を悪化させるため、収益確保や経費節減など経営の健全化に努める必要がある。しかし、別表にあるとおり、富江病院については医業収益の増加により、良好な収支を維持している。

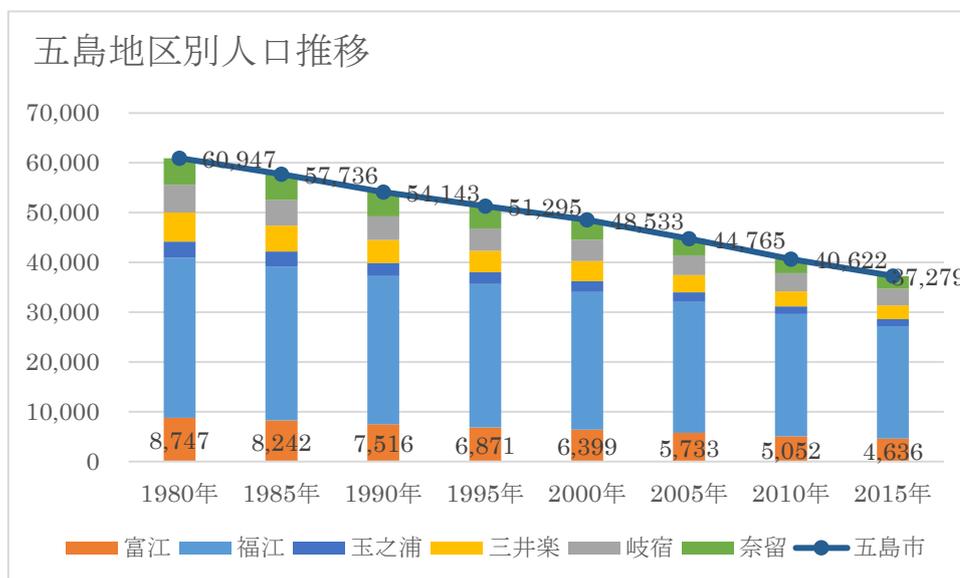
経営状況（百万）	H23	H24	H25	H26	H27	H28
医業収益	5,013	5,146	4,788	4,890	4,741	4,556
入院収益	3,102	3,238	2,952	3,054	2,977	2,806
外来収益	1,645	1,666	1,614	1,490	1,469	1,459
その他医業収益	266	242	221	346	295	291
医業外収益	1,375	1,329	1,315	1,312	1,287	1,277
特別利益・老人介護	5	5	6	104	45	12
病院事業収益	6,393	6,481	6,109	6,306	6,073	5,845
医業費用	5,993	5,890	5,637	5,706	5,680	5,630
給与費	3,157	2,954	2,708	3,015	3,026	3,017
材料費	1,324	1,382	1,275	1,193	1,161	1,099
経費	1,110	1,125	1,191	983	949	923
減価償却費	363	395	427	483	503	551
その他	39	34	36	32	41	40
医業外使用	317	310	298	347	367	321
特別損失・老人介護	10	141	115	285	89	82
病院事業費用	6,320	6,341	6,050	6,338	6,136	6,033
収支差	73	139	59	-32	-63	-188

○地域医療構想による再編計画

五島地域での医療提供の体制において、急性期病床の占める割合が高く、必要とされる回復期病床の割合が低い。急性期病床から回復期病床へ医療機能を転換し、連携を強化して、効率的な医療提供体制の確保に努める必要がある。



② 自施設の現状



五島市の地区ごとの高齢化率

	平成 16 年 8 月 1 日	平成 29 年 3 月 31 日
福江地区	25.37%	33.62%
富江町	32.58%	42.48%
玉之浦町	40.89%	55.35%
三井楽町	31.12%	40.86%
岐宿町	33.10%	40.63%
奈留町	33.02%	48.76%
五島市	28.75%	37.56%

富江地区の人口は2025年頃まで4,000人前後と推定される。一方、高齢化率は上昇し、2025年には40%以上となる。その結果、有病高齢者、独居者、交通手段のない高齢者が増加し、介護者の不足が深刻化すると思われる。

(富江地区の医療状況)

富江地区には富江病院(55床)と富江診療所(無床)の2つの医療機関があるが、2025年頃には富江病院だけが唯一の医療機関となる可能性が高い。

(富江病院状況)

富江地区の地域病院として、急性期病床55床を有し、救急医療にも対応している。しかし、入院患者の40%前後は回復期の患者で占められており、早急な病床機能の見直しが求められる。

- ・病床数 55 床（看護配置：一般 15：1 6：1 補助）
- ・診療科目：内科、外科、整形外科、小児科、眼科、リハビリテーション科
- ・救急告示病院、協力型臨床研修病院
- ・建設：平成 4 年 1 月 改修工事：平成 19 年 2 月 28 日
- ・電子カルテ：平成 29 年 3 月 6 日開始（富士通システム：HOPE/EGMAIN-LX）

（患者数状況）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
平均患者数（入院）	46.2	48.9	43.9	53.0	53.6	52.6
病床利用率	84.0	89.0	79.7	96.3	97.5	95.7
平均在院日数	38.3	33.8	41.5	31.5	30.6	31.3
診療単価（入院）	18,437	18,796	19,453	19,899	20,841	20,377
時間外患者数（入院）	146	167	197	136	140	68
平均患者数（外来）	89.8	83.9	76.7	69.8	71.7	65.4
診療単価（外来）	5,692	5,905	6,188	7,135	6,676	7,036
時間外患者数（外来）	855	827	725	777	721	590
透析患者数	798	931	854	912	1,017	934

病床利用率は平成 25 年度まで 80%前後で推移していたが、平成 26 年から 95%前後に上昇している。在院日数は 30 日前後であったが平成 29 年 10 月から、看護基準の見直しに伴い 20 日前後に短縮された。新入院患者数も 600 名前後と安定し、透析も順調に行われている。

（職員数の推移）

	定数	H23	H24	H25	H26	H27	H28
医師	7	3	3	4	3	4	4
看護師	25	26	26	26	26	26	27
薬剤師	3	1	1	1	1	1	1
検査技師	2	2	2	2	2	2	2
放射線技師	2	2	2	2	2	2	2
OT・PT	2	2	2	2	2	2	2
栄養士	1	2	2	2	2	2	2
事務	6	5	3	4	6	7	6
助手・クーク	0	8	9	10	10	9	10
その他	0	4	4	4	4	10	10
合計	48	55	54	57	58	65	66

（嘱託・臨時・パート職員計上）

医師は病医院企業団から定期的に派遣される。看護師については定年退職者の欠員は順調に補填されている。薬剤師の確保が困難であるため、長崎大学病院薬剤部から定期的に派遣予定である。

(経営状況)

(千円)	H23	H24	H25	H26	H27	H28
医業収益	458,708	474,802	438,702	557,626	580,607	557,772
入院収益	311,873	335,639	311,361	384,625	409,188	391,400
外来収益	124,676	121,426	115,864	121,509	116,368	111,840
負担金				36,294	36,294	36,294
その他医業収益	22,159	17,737	11,477	15,198	18,757	18,238
医業外収益	178,420	177,124	175,912	148,608	145,082	143,658
特別利益	77	1	18	11,728	39,347	190
病院事業収益	637,205	651,927	614,632	717,962	765,036	701,620
医業費用	605,092	591,140	605,459	634,480	629,664	577,501
給与費	353,816	329,786	325,497	402,723	413,788	378,101
材料費	72,543	70,875	75,284	89,840	84,245	89,091
経費	148,919	160,126	171,615	112,305	101,800	79,554
減価償却費	28,814	27,982	31,044	27,645	27,464	29,166
その他	1,000	2,371	2,019	1,967	2,367	1,589
医業外使用	12,002	10,669	17,796	23,756	22,215	24,001
特別損失	628	5,150	8,525	70,617	56,316	50,871
病院事業費用	617,722	606,959	631,780	728,853	708,195	652,373
収支差	19,483	44,968	-17,148	-10,891	56,841	49,247

医業収益は平成 26 年度から 1 億円以上の増収となっており、収支の黒字化は達成できた。また、退職引当金 2 億 5,000 万円の欠損金についても平成 26 年度～平成 30 年まで計上し、計上が終了した平成 31 年度は更なる収支の改善が見込まれる。また、平成 30 年 1 月から 13 : 1 看護基準変更により入院基本料の増加が見込まれ、平成 30 年度から回復期病床の導入により、2025 年まで安定した経営が維持できると考えている。

③ 自施設の課題

- 下五島地区全体として地域医療構想に沿った再編が求められている。当院では地域医療構想に基づいた病床削減、とりわけ急性期病床の削減が不可避である。人口動態に基づき急性期病床 55 床を 2025 年頃には回復期病床 30 床に転換し、15 床前後まで段階的な削減が可能かと思われる。
- 富江地区でも高齢化や人口減少が進行しているが、新入院患者は 600 人前後と安定しており、病床利用率も 90%以上、在院日数も最近では 20 日前後である。しかし、入院患者の 40%は回復期の患者であり、病床機能の見直しが必要の課題である。
- 薬剤師の確保が喫緊の課題である。医師は公募医と県の養成医が常勤し、長崎大学病院眼科、移植消化器外科から診療応援を受け、循環器内科からも派遣を予定している。看護師は円滑に世代交代している。薬剤師の確保対策として、長崎大学病院薬剤部からの定期的派遣が計画されている。

- ICTを活用した医療環境を構築したいが、大容量のデータを送受信できるようなインフラ整備が確保されていない。
- 施設の空調設備や医療器械の更新が増加し、資本的支出及び修繕費の増加。

【2. 今後の方針】

① 地域における今後担うべき役割



○下五島地域には病院として4施設存在するが、地区全体として急性期病床の過剰と回復期病床の不足が指摘されている。(地域医療構想より) 富江地区では高齢化率の上昇に伴い、有病高齢者、独居者、交通手段のない高齢者の増加が危惧される。富江病院を除けば、他の3施設は福江地区に集中しており、長崎県が提唱する地域包括ケアシステムを構築するには、富江地区にも回復期病床が不可欠である。

富江病院は富江地区の回復期医療の充実と地域包括ケアシステムの中心を担うことが必要である。

○特定健診対象者の61%は健診未受診者であり、25%は特定健診も治療も受けておらず、身体状況がわからない現状であるために、市と連携して特定健診受診率を向上させ、地域住民の生活習慣病のスクリーニングを徹底し、情報を共有する。

② 今後持つべき病床機能

○医療の質を向上させるために、看護基準を現行の15:1から平成30年1月より13:1に変更する。

○地域医療構想に基づき急性期病床を現行の55床から2025年頃までに15床前後まで段階的に縮小する。

○回復期病床の整備は、住民ニーズとして強く求められており、喫緊の課題である。地域医療構想との整合性を調整しながら、平成30年4月を目標に回復期病床の整備を進めたい。

○回復期病床への変更に伴い、リハビリテーション室の増築、食堂の設置、トイレ・シャワー室の完備し、療養環境改善のため整備をする必要がある。

③ その他見直すべき点

○地域包括ケア病床を導入するにあたり、理学療法士及び作業療法士の不足が想定される。適切な人員配置調整が必要と思われる。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

	現在 (平成 28 年度病床機能報告)		将来 (2025 年度)
高度急性期		→	
急性期	55床		15床
回復期			30床
慢性期			
(合計)	55床		45床

<具体的な方針及び整備計画>

- 入院患者の重症度が低下しており、急性期医療から回復期医療への転換が必要。また、五島地区においては、回復期病床の割合が低いため、患者動向に対応した病床の転換が必要である。
- 病院建設から25年経過し、老朽化により病棟環境が悪化しているため、急性期から転換する回復期病床の環境改善とトイレやシャワー室の設置し、より患者が自立しやすいように病棟を改修する。
- 回復期病床のリハビリテーションの充実のため、病床数を減少させ、リハビリテーション室を増築。また、早期離床を目的とし、デイルームを患者専用の食堂に改修する。



- 急性期病床15床 (個室5床・観察室2床・2室×4床)
- 回復期病床30床 (7室×4床・1室×2床)
- 急性期病床2室→リハビリテーション室
- デイルーム→食堂

<年次スケジュール>

	取組内容	到達内容
2017 年度	一般 15 : 1 看護基準 ↓ 一般 13 : 1 看護基準	○2018 年 1 月に取得予定。
2018 年度	一般 5 5 床 ↓ 一般 3 0 床 地域包括ケア病床 2 5 床	○2018 年 4 月までに地域包括 ケア取得予定。 ○地域医療構想調整会議におい て自施設の病床のあり方を提示 し、検討する。
2019～2020 年度	○具体的な病床整備計画を策定 ○改修工事の施工業者の選定	○2019 年度中に整備計画策定
2021～2023 年度	○改修工事の発注 地域医療介護総合確保基金を活用 して改修工事 一般 3 0 床 地域包括ケア病床 2 5 床 ↓ 一般 1 5 床 地域包括ケア病床 3 0 床	○2022 年度末までには、一般 1 5 床・地域包括ケア病床 3 0 床で稼働
2024 年度以降	人口動態と高齢化状況をみなが ら、今後の対応を検討。	

<地域医療構想に基づく段階的再編予測>

現在	2018 年度	2019 年度	2022 年度	2025 年度
急性期(55 床)	急性期 (30 床) → (15 床) 回復期 (25 床) → (30 床)		検討 期間	介護医療施設 富江医療センター
訪問診療、訪問看護				

② 診療科の見直し

今後の患者動向をみて検討する。小児科については標榜を取り下げ、整形外科・眼科については応援医師の派遣で対応していく

③ その他の数値目標について

○第2次中期経営計画を目標

<収支計画>税抜き（単位 百万円、%）

		H28	H29	H30	H31	H32
収 入	1. 医業収益	558	598	598	599	598
	入院収益	391	418	418	419	418
	外来収益	112	142	142	142	142
	その他	55	38	38	38	38
	うち他会計負担金	36	17	17	17	17
	2. 医業外収益	144	90	89	85	67
	他会計負担金・補助金	126	75	74	70	52
	国・県補助金					
	長期前受金戻入	11	9	9	9	9
	その他	7	6	6	6	6
	経常収益	702	688	687	684	665
支 出	1. 医業費用	578	681	692	694	697
	職員給与費	378	436	439	441	444
	うち退職給付費	8	2	2	2	2
	材料費	89	93	93	93	93
	経費	80	105	108	108	108
	減価償却費	29	42	49	49	49
	その他	2	5	3	3	3
	2. 医業外費用	24	22	18	17	17
	支払利息	3	3	2	1	1
	その他	21	19	16	16	16
	経常費用	602	703	710	711	714
	経常損益	100	△15	△23	△27	△49
特別 損益	1. 特別利益	1	1	1	1	1
	2. 特別損失	51	50	50	2	2
	特別損益	△50	△49	△49	△1	△1
	純損益	50	△64	△72	△28	△50

<医療機能等指標に係る数値目標>

	H28	H29	H30	H31	H32
救急患者数	590	700	700	700	700
研修医の受入件数	21	20	20	20	20
紹介率	21.2	20.0	20.0	20.0	20.0
逆紹介率	10.8	5.0	5.0	5.0	5.0
訪問診療	166	350	350	350	350
リハビリ件数	4,670	4,300	4,300	4,300	4,300
患者満足度	—	90.0	90.0	90.0	90.0
健康・医療相談件数	2,204	3,500	3,500	3,500	3,500

(1) 収支改善に係るもの	H28	H29	H30	H31	H32
経常収支比率	115.8	97.9	96.8	96.2	93.1
医業収支比率	95.2	87.8	86.4	86.3	85.8
修正医業収支比率	95.1	91.2	90.6	90.5	89.9
(2) 経費削減に係るもの	H28	H29	H30	H31	H32
材料費対医業収益比率	16.0	15.6	15.6	15.5	15.6
委託費対医業収益比率	5.6	6.1	6.5	6.5	6.5
職員給与費対医業収益比率	69.1	72.9	73.4	73.4	74.2
減価償却費対医業収益比率	5.3	7.0	8.2	8.2	8.2
後発医薬品の使用割合	37.4	30.0	30.0	40.0	40.0
(3) 収入確保に係るもの	H28	H29	H30	H31	H32
新入院患者数	595	600	600	600	600
1日当たり入院患者数	52.6	52.0	52.0	52.0	52.0
1日当たり外来患者数	65.4	80.0	80.0	80.0	80.0
入院患者1日1人診療単価	20,377	22,000	22,000	22,000	22,000
外来患者1日1人診療単価	7,036	7,300	7,300	7,300	7,300
病床利用率(%)	95.7	94.5	94.5	94.5	94.5
平均在院日数(一般)	31.3	30.0	24.0	24.0	24.0